

近親者からの性虐待被害についての調査アンケート

実施日：2016.05.18

I. 質問内容

1. 年齢
2. 性別（自認している性別）
3. 被害を受け始めた年齢
4. 性被害だと認識した年齢
5. 最後に被害を受けた年齢
6. 支援機関につながったことは？（ある・ない）
→あると答えた人（その時の年齢 歳）
7. 専門的な治療機関につながったことは？（ある・ない）
→あると答えた人（その時の年齢 歳）
8. 被害を受けていた時の住居所在地
（都内・都内近郊都市・地方都市・地方都市以外）
9. 加害行為をした人との関係性父
（父・兄・弟・義理の父・同居している父がわりの人・祖父・叔父・従兄弟）
（母・姉・妹・義理の母・同居している母がわりの人・祖母・叔母・従姉妹） その他
（ ） 例：母の恋人 父の恋人
10. 他の性被害にあったことはありますか？（ある・ない）
→ 差し支えなければ簡単な状況説明
11. 警察などに相談したことはありますか？（ある・ない）
12. 裁判を起こそうと思ったことはありますか？（ある・ない）
13. 被害による影響と思われることを教えてください。
14. 被害にあって現在困っていることはありますか？

II. 対象者：

SIAb.自助グループミーティング参加者 7名+スタッフ2名 合計9名

質問番号	項目	回答者								
1	年齢	36歳	48歳	60歳	36歳	22歳	30歳	39歳	48歳	
2	性別	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	
3	被害を受け始めた年齢		3歳	4歳	6～7歳	5歳?	7～8歳	3歳以前	4歳以前	
4	性被害だと認識した年齢	29歳	14～15歳	50歳	11～12・13歳	19歳?	12～13歳	10歳	20歳(*6歳)	
5	最後に被害を受けた年齢	15～16歳?	23～24歳	19歳	17歳	13～15歳? (中学生)	20～22歳	16歳	16歳(レイプ未遂)	
6 ①	支援機関につながったことは?	ある(自助G)	ある(自助G)	ない	ある	ある	ある	ある	ある(自助G)	
②	あると回答 その時の年齢	30歳	24～26歳		36歳	19歳	27歳	16歳	45歳	
	最終被害が支援につながるまでの期間	約15年	0年～2年	—	19年	4～6年	5～7年	0年	29年	
7 ①	専門的な治療機関につながったことは?	ある	ない	ある	ある	ある	ある	ある	ある	
②	あると回答 その時の年齢	30歳		40歳	30歳	16歳	28歳	15歳	42歳	
	最終被害から治療につながるまでの期間	約15年	—	21年	13年	1～3年	6～8年	1年	26年	
8	被害を受けていた時の住居所在地	都内	都内近郊都市	都内近郊都市	地方都市	都内近郊都市	都内	地方都市以外	都内近郊都市	
9	加害行為をした人との関係性	兄	父・母	祖父・母・兄・叔母	兄	主に兄・父	兄	父	父	
10	他に性被害にあったことはありますか?	ない	ある	ある	ある	ある	ある	ない	ある	
11	警察などに相談したことはありますか?	ない	ない	ない	ない	ない	ある	ある	ない	
12	裁判を起そうと思ったことはありますか?	ある	ない	ある	ある		ある	ない	ない	

10. 他の性被害にあったことはありますか？→ あると答えた人からの回答

○回答者 1、2 および 6

- ・ 痴漢

○回答者 3

- ・ 電車内での痴漢 3回
- ・ 小学6年生の時、同級生の男の子3人に押さえつけられて股間をいじられた
- ・ 中学3年の時 塾送迎車内で同級生の男の子2人に胸を揉まれた

○回答者 5

- ・ 知らない男性からキスされたり、性器を見せられたり、痴漢された
- ・ テーマパークで羽交い締めにされて性器を押し付けられた
- ・ レイプ未遂（友人の結婚式でトイレ内で同級生から）

○回答者 7

- ・ 7歳の頃 2人組の男に連れ込まれて体を触るなどされた
- ・ 小学生～現在 電車・バス内での痴漢 露出狂被害 道でいきなりお尻を揉まれた
- ・ 25歳頃 仕事先の男性客の車に半日軟禁され、危険薬品で脅され性関係を迫られた（なんとか逃げた）

○回答者 9

- ・ 小学高学年のとき、20代の男性教師のボディタッチ（体操着のときにお尻を触るなど）。避けて近づかないようにしたら、授業中に無視するなどの逆切れ行為に。
- ・ 高校生の頃、通学で使っていた電車は毎朝超満員で、痴漢行為多発で有名だったこともあり、被害は日常的。
- ・ 20代の頃、採用が決まっていた会社の上司となるはずだった男性から、入社前に打ち合せがあるとのことで呼び出され、泥酔するまで飲まされたところでホテルは予約してあると言われて、タクシーで逃げた。

13. 被害による影響と思われることを教えてください。

- ・ 不眠（布団に入ると誰かが殺しにくる気がしたり、寝ていても些細な物音でも目が覚めたりし、十分な睡眠がとれない）
- ・ うつ状態 気分不調
- ・ 自立神経失調症（体温調整ができない）
- ・ 心身症
- ・ 境界性人格障害傾向（我を忘れるほど激しい怒りがこみ上げることがある：性暴力のニュースなどの情報を目にしたことがきっかけになることが多い）
- ・ パニック障害
- ・ 離人感
- ・ 急性胃潰瘍の繰り返し
- ・ 過敏性腸炎
- ・ 蕁麻疹
- ・ 目が見えにくくなったり、耳が聞こえなくなったりする
- ・ 歯ぎしり（しばしばトラウマに関する悪夢を見る。悪夢の際の睡眠中の歯ぎしりで何度か歯が割れてしまった）
- ・ 慢性的な偏頭痛
- ・ 身体中のイボ（50個以上）
- ・ ひどい便秘（小学生の頃 慢性的に1週間～3週間の便秘が）
- ・ 慢性的に身体中が痛い

- ・ 幻覚や幻聴
- ・ 現実逃避
- ・ 悪夢を見る
- ・ フラッシュバックやフラッシュバック時の体の硬直
- ・ 解離
- ・ 声が出なくなる
- ・ 突然涙が止まらなくなる

- ・ 未成年での飲酒・泥酔の繰り返し
- ・ 合法ドラッグ使用
- ・ 有機溶剤吸引
- ・ 無免許・泥酔状態によるバイク暴走による事故

- ・ 自傷行為
 - ・ 自殺行為（ひどく落ち込み自殺を試みることがある）
 - ・ 自殺願望や自殺念慮（いつも自分が悪く、死ななければならないという罪悪感がある）
 - ・ 加害衝動
 - ・ 自殺念慮
 - ・ 無理なダイエット
-
- ・ 小学生時代にいじめにあっただけだった
 - ・ コミュニケーション力不足
 - ・ 社会不適応
 - ・ 家族と率直でくだらない話ができない
 - ・ 健全な性関係を持ってない
 - ・ 性行為をしたくない時期、したい時期に極端な差がある
 - ・ 女友達の生育環境が羨ましい。
 - ・ 子どもを持つことが怖い
 - ・ 結婚できない
 - ・ 世界は危険に満ち溢れていると思ってしまう。人を信用できない。
 - ・ 他人と親密な関係を築けない
 - ・ 感情が鈍麻している
 - ・ 新しい場所・人・環境（状況）を極度に恐れる
 - ・ 攻撃的になる
 - ・ 性的なことを嫌がるが渴望する自分もいる
 - ・ 極端に自己肯定感が低い
 - ・ 人が享受している幸せは享受できないと思う。
 - ・ PTSD の症状がたくさん出すぎて離職
 - ・ 高校までは離人感と対人恐怖。以後は 対人恐怖。
 - ・ 小学生中学年位から不思議ちゃんと周囲から戸惑って言われるようになる。
 - ・ 定期的に狂ったように朝から晩まで掃除をして次の日高熱を出して寝込む
 - ・ 近親姦の話は自助グループと通院中の病院以外では話せないのに、特有の苦しみでのたうち回っていても、周囲の人には理解されず変な人だと誤解されていく。
 - ・ 自分の常識が世間の常識と離れてしまうこと（例 男性との距離感が分からず、19 歳の時に少し年上の男性に講習の面前で抱きつく。）
 - ・ 高校の時に、本心ではしたくないのに、彼氏との性行為に溺れる。（意識してなかったが、事実上のトラウマの再現？）

- ・ 無意識に自分が我慢することで場を成り立たせる思考になる(例 一限の授業を当日の朝に先生が休んだときも、ほとんどの生徒がキレているのに、私は怒りが湧いてこない。幼少期は特に両親が揉めても取り持とうと必死になった。)
- ・ いつも誰かに殺されたりひどい目に遭わされるのではという恐怖感や不安感に苛まれている。家の中でも外でも緊張状態にあり気が休まらない
- ・ ふと被害の記憶や感覚がフラッシュバックし、とても嫌な気持ちになる。物事が手につかなくなり気づくと何時間も経っていたり、長く体調を崩すこともある
- ・ 入浴が被害を思い起こすきっかけとなるため、とても苦痛を感じる。恐怖感から何日も入浴できないことがある
- ・ 嫌な記憶を思い出すようなものごとを意識的にも無意識的にも避けてしまい、行動範囲や選択肢を狭めていると感じる。(男性との会話や電車での隣席、加害者と同名や同世代の人物、加害当時に身の回りにあったものや流行歌など)
- ・ 食べ物に依存し、過食や食べ吐きなどの摂食障害

14. 現在困っていること

- ・ 両親の介護など、兄弟で協力しあわないといけない時に、どう振る舞えばよいかわからない(兄嫁、自分の妹、その他の親戚は兄からの性虐待の事実を知らない)
- ・ 両親や夫の両親は、子ども(孫)を望んでいるが、自分はどう考えているかわからない。不安が強い。
- ・ 休職したが、友人や夫の家族に PTSD と言えないので、病気のこと、治療中のことを話せないで、親しくしていた人とも距離ができてきた。
- ・ 結婚できない
- ・ 性関係を持ってない
- ・ 性虐待の記憶が出てきたのは 10 年前。それから少しずつ思い出して、まだ部分的にしき思い出せていない。近親姦虐待の記憶を思い出す作業は大変辛く、病気休職を取った時もある。治療を受けながら裁判を起こす体力も気力もない。
- ・ ひとつ屋根の下で、家族全員と暮らしているので、感覚が麻痺していくところもある。死にたいと思うので、疲れる。
- ・ 対人恐怖
- ・ 必死に就職活動も頑張る前へ進もうと頑張っているのに、被害の後遺症でなかなか思うようにいかないで苦しんでいる。背景を知らない人から「前に進まなきゃ」と言われる。「必死に進んでるわ！」
- ・ 原家族との実質的な絶縁状態や心理的な距離。(子どもがいるので、最近自分より子どもへの心理的な影響を考える。)